

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2005.12) 6巻1号:87～88.

第43回北日本眼科学会報告

吉田晃敏、石子智士

学界の動向

第43回北日本眼科学会報告

吉田 晃敏*・石子 智士*

第43回日本眼循環学会は、旭川医科大学眼科学講座吉田晃敏を会長に、平成17年7月15日(金)、16日(土)の両日、旭川市民文化会館で開催されました。この会は、東北北海道の関連大学が持ち回りで主催しており、北海道で開催されるのは4年ぶりですが、旭川で開催されるのは11年ぶりになります。

第1回目の北日本眼科学会は、東北眼科学会、日眼北海道地方会、金沢眼科集談会、新潟眼科集談会などの連合で、昭和30年の6月に新潟で行なわれました。これまで、第5回から第9回までの間は2年に1回の開催となり、いくつかの大学で入会・退会があるなど、紆余曲折を得て今年でちょうど50年目を迎えます。最近眼科領域では、地方学会の存続意義が問われるようになり、昨年、関東眼科学会と中部眼科学会がその歴史に幕を下ろしました。北日本眼科学会もその存在自体を見直す時期に来ており、前回の本学会の評議員会で旭川医科大学の吉田晃敏教授が存続に関する検討のまとめ役となりました。評議員へのアンケートでは、なんらかの形で存続を希望される方が61.5%おり、これをもとに評議員会で討議したところ、最盛期には演題数が130題を超え参加者数は500名を超えていた学会であり、この地域の眼科学の向上に50年もの間重要な役割を果たしてきた伝統ある会議であることから、なんらかの形で今後も存続させることになりました。

今回の学会では、特別講演、2つの教育講演、シンポジウムに加え、2つのランチョンセミナーを行いました。東北・北海道の先生を中心に九州からの演題もあり、合計41題の一般演題が集まり、240名を超える参加者がありました。この時期の旭川は、ラベンダーのよい時期でもありますが、当日は天気にも恵まれ、多くの参加した先生には、学会のみならず夏の北海道

を十分楽しんでいただけたようです。

また、学会を自由な雰囲気、活発な討論・交流の場にしたいということから、ノーネクタイでの参加を呼びかけました。



ノーネクタイで開会の挨拶をする吉田晃敏教授

学会第一日目の午前、「角膜・前眼部」「斜視・その他」の一般演題からはじまりました。

昼には、「シリコンハイドロゲルレンズの現在と未来」という題で、CIBA Visionの松澤康夫先生と糸井眼科医院の糸井素純先生によるランチョンセミナーが行われました。

午後からは、特別講演とシンポジウムが行われました。特別講演には、山形大学教授・山下英俊先生をお招きし、「黄斑浮腫の病態と治療」についてご講演頂きました。北日本眼科学会はこの地域の先生方の情報交換の場としても重要な役割を果たしてきました。しかしながら、ここ数年の間にいくつかの大学で新しい教授が着任され、その大学の専門分野に大きな変化がみられます。そこで現在この地域の大学ではどのよう

*旭川医科大学 眼科学講座

な特徴をもって研究・臨床を行っているのかを広く知っていただきたいという思いから「北日本眼科学会関連大学紹介シンポジウム」と題したシンポジウムを企画しました。今回は、東北・北海道の北日本関連大学のうち、教授不在の東北大学と秋の臨床眼科学会でシンポジウムを行う北海道の3大学を除いた、弘前大学、秋田大学、岩手医科大学、山形大学、福島県立大学、新潟大学の6大学にそれぞれ時間を預け、各大学の眼科を自由にアピールして頂きました。

第一日目の学会終了後、「北の宵まつり」と題した懇親会を、旭川グランドホテルを会場に行いました。会場に屋台を設け、水槽に放ったやまべを自由にすくって頂き、そのまま天麩羅として揚げてもらうなど、楽しみながらご歓談していただきました。

第二日目は、「緑内障」「白内障・その他」の一般演題からはじまりました。このセッションでは、旭川医科大学名誉教授・保坂明郎先生が開業されてからの緑



講演される旭川医大眼科前教授保坂明郎先生

内障患者の症例をまとめて発表されました。

ひき続き、教育講演2つが行われました。はじめの教育講演は新潟大学教授・阿部春樹先生に「日本の緑内障診療ガイドライン～各国との比較を含めて～」という題で緑内障に関するご講演を、続く教育講演は岩手医科大学名誉教授・田澤豊先生に「ERGはなぜ大切か」という題でERGに関するご講演を頂きました。どちらも、明日の臨床からすぐに役立つ知識をわかりやすく解説したすばらしい講演でした。

この日のランチョンセミナーは、東北大学の布施昇男助教授と吉川眼科クリニックの吉川啓司先生により「緑内障薬物治療～私ならこうする、患者の年齢と治療方針～」と題して行われました。

午後からは、次期会長の秋田大学吉富志教授の挨拶があり、続いて「眼虚血・閉塞性疾患」「糖尿病・その他」「Medical Retina」「Surgical Retina」の一般講演が行われ全ての演題発表が終了しました。

北日本眼科学会は、この地域の眼科学の向上に重要な役割を果たしてきたのみならず、この地域の先生方の情報交換の場、親睦を深める場としても重要な役割を果たしてきました。本会議では、大学の紹介シンポジウムにより現在の大学の情報を共有できるなど、非常に有意義な学会でありました。

ここにあらためて、「第43回北日本眼科学会」開催のため、本学関係者から頂いたご支援、ご協力に、心から感謝致しますとともに、本学会を盛会裡に終了でき厚くお礼申し上げます。